

研究紀要の発刊に寄せて

校長 並川 直人

第3号となる令和5年度の研究紀要を発行することができました。これまでの継続研究をさらに進める意味において、普通科では「読解力の向上」、農業科では「プロジェクト学習の充実」を協議題として授業実践や協議を行い、それを学習指導で実践し評価・検証してフィードバックする活動が行われました。

学校経営計画で、特に「読解力」を育成し、「アウトプット（話す・書く・行動する）」も重視する。生徒の思考場면을重視した「考え抜く授業」を実践する。定義の理解など、教科書を読んで理解できる力・表現できる力を育成する。としています。

若手教員の育成研修では、自ら成長できる教員を育てること、教員の授業実践こそが主体的・対話的で深い学びが特に必要と考えます。

若手教員育成研修や研究員の先生方の実践はこれらの育成課題を意識した実践であり、今後は学校全体で各教科・科目や特別活動までを含め、生徒の読解力、課題発見・解決能力を高めるには、点から線へ、そして面へと結ぶために各科目における指導の充実が望まれます。

また、授業を校内に開くというオープン・シェア化は6割の教員が積極的に授業を開き、学びの日常化が文化として根付き始めてきました。

悩みや知恵を出し合い、インプット→アウトプット→リフレクションの流れが好循環を生む気配を感じることができました。特に、研究協議会では振り返りと情報共有が授業を学校全体で協働して創っていく方向性も確認でき、成長を喜び合ったり、成長を実感したりすることもできました。

本校生徒を目指すべき方向に導き、学び続けることのできる生徒を育てるには、最適解はありません。本校が抱える課題はSociety5.0の時代では大きく変化し、教員構成も入れ替わります。園芸高校の教育力を維持・継承していくためにも自ら成長する教員が育つ学校である必要があります。

結びに、本校での研究推進にあたり、取組を温かく御指導下さいました研究部主任、教科主任をはじめ関係の皆様にご心より感謝申し上げます。

令和6年度もさらに研究実践を深めて参りたいと存じますので、御高覧いただきました皆様には一層の御指導を賜りますことを重ねてお願い申し上げます。